

# 苫小牧市教育委員会会議録

会議区分	苫小牧市教育委員会 第 10 回 定例委員会
日時	平成25年7月26日 自 15時 至 16時55分
場所	苫小牧市役所第2庁舎2階会議室
出席委員	委員長 上原 毅 委員 佐藤 郁子 委員 佐藤 守 委員 植木 忠夫 委員 和野 幸夫
欠席委員	
会議録署名委員	和野 幸夫 教育長
会議録作成職員	総務企画課総務係主事 田中 亮太
事務局職員	学校教育部長 澤 口 良 彦 スポーツ生涯学習部長 生 水 賢 一 学校教育部次長 戸 村 真 規 スポーツ生涯学習部次長 木 戸 克 史 指導室長 中 川 恵 介 生涯学習課長 佐々木 弘 子 青少年課長 宮 嶋 紀 子 スポーツ課長 野 水 充 中央図書館長 瀬 能 仁 博物館長 荒 川 忠 宏 科学センター館長 相 内 宏 司 総務企画課長 斉 藤 拓 也 総務企画課総務係長 下 濱 辰 哉 総務企画課総務係主事 田 中 亮 太
会議案件	別紙のとおり
会議の経過概要	別紙のとおり

1	委員会開会の宣言（上原委員長）…15時
2	会議録署名委員の指名（和野幸夫 教育長）
3	会議録の承認
	（上原委員長） 第8回定例教育委員会（平成25年6月11日開催）について、何か御質疑等ございますでしょうか。
	（一同「なし。」の声）
	（上原委員長） 質疑がないようですので、会議録どおり承認してよろしいでしょうか。
	（一同「はい。」の声）
	－会議録どおり承認－
4	教育長の報告
	はなぞの幼稚園が7月19日、小中学校は24日と25日で1学期の終業式を済ませて、既に夏休みに入っております。それでは、6月11日以降の報告をいたします。小中学校の運動会や体育祭は、6月30日の啓北中学校山なみ分校を最後に、無事行事を終えることができました。今年も苦小牧らしい天気でありましたけれど、各学校の運動会や体育祭は大きなけがもなく無事終了したところでございます。6月20日から28日まで第11回定例会が開催をされております。この後、概要について

お話をさせていただきます。6月22日に博物館大学講座の入学式が開催をされました。20歳代から80歳代までの157名の皆さんが2月までの講座受講をされることになっております。7月1日の結団式を皮切りに子どもの命を守り心を育てる月間が始まっております。また、6日にはいじめ問題子どもサミットが開催をされ、市内の小中学校の代表76名の参加をいただきました。子どもの視点からいじめられている仲間やいじている仲間の声かけなどを話し合い、また、川村道夫先生の司会進行により実りのあるサミットになったと考えております。今後は、サミットからの提案を広く大人や子どもたちに伝えていくことを考えております。7月8日に文化財保護審議会が開催され、9名の委員の皆さんに辞令交付をいたしました。2年間の取組をお願いしたところでございます。他に、7月8日に学校給食会定例理事会、7月16日には故野村博校長に瑞宝双光賞の死亡叙勲伝達を行いました。7月17日、青少年委員永年活動感謝状の交付を行っております。次に、第11回の定例会についてであります。一般質問では、夜間中学の設置について、北海道では自主夜間中学として札幌、函館、旭川、釧路で開催をされております。本市の平成22年度の国勢調査データの未就学者の欄は258名の記載になっております。実情が把握できないところではありますけれど、状況の把握を兼ねて市民講座の開設などを検討したいと考えております。次に小中学校の整備計画と規模の適正化、この課題はこれから議会ごとに議論が深まる、若しくは、厳しくなる課題であります。先に作成をした苫小牧市立小中学校規模適正化基本方針をベースに、施設保有総量の圧縮をにらみながら今後の具体案を作成し、協議を進めることになると考えております。生活保護扶助費基準見直しに伴う準要保護基準の取扱いについて議論となっております。国の考え方の詳細が示されていないことがありまして議論を生んでおりますけれど、基本的には基準どおりの制度運用を行うことになると考えております。学校施設の整備について、山なみ分校の法面、アスレチック施設の撤去、中学校グランドバックネットの整備についての質疑もございました。教職員住宅の維持管理として、入居不能住宅、特に元町の集合住宅の撤去を強く求められております。既に管財課に建物付きで土地の売却をお願い

しているところでございますが、御承知のとおり売却には至っておりません。今後も防犯や安心安全の見地から管理が必要であると考えております。特学の医療ケアについて、6月13日に肢体不自由の子どもがいる母親たちが市長に要望書を提出したことがきっかけになっております。平成23年12月30日の文部科学省の医療的ケアの今後における対応の通知に関することでありまして、たん吸引や、胃ろうについて学校で看護師を配置してほしいとの要望の内容であります。現在配置している介添員に看護師の有資格者を配置するなどの工夫により対応できるのではないかと考えております。特別支援教育の充実についても質疑がありました。各中学校への特別支援教室の設置についてであります。中学校の特別支援教室の設置は、拠点方式として多くの予算を掛けて整備をした経緯もあることから、中々話が進まない部分もございましたが、普通学級への影響も考慮して、また、特別支援教育振興委員会からのお話もあり、少し前へ踏み出そうと考えております。平取養護学校の送迎バスへの支援については、父母の会の今後の動向に注目をしている状況にあります。制服着用は、何度も議会で指摘を受けている課題ではありますが、生徒の実態や学校事情により、取り組むことが難しい学校もあるようですが、中学生には、時と場所に応じた服装や言動ができるようにすることは重要なことであり、時間が掛かり労力のいることではありますけれど、できるだけ今年度中に取組に着手をしてもらいたいと考えているところでございます。中学校修学旅行の旅行先について、東北方面に早期に戻すべきとの指摘がございましたが、逆に東京方面の暫定措置を解除との要望が中学校長会から出ており、早期に結論を出す課題であると考えております。いじめ問題や体罰について、今国会でいじめ防止法が成立し、北海道でも条例制定の検討を進めておりますが、教育委員会としての取組や地域との連携について質問がございました。介護体験教育についての質問もございました。また、スポーツ生涯関係では子ども向け職業体験イベント、キッズタウンについて、緑ヶ丘サッカー場の全天候化について質疑質問がございました。以上、スポーツ生涯学習も含めて12名の議員から、21項目についての質疑をいただきました。また、議案審議では第8号議案で苫小牧市図書館条例の一部改

正、第9号議案で苫小牧市児童館条例の一部改正が、賛成多数で議決をされたところでございます。最後にこれからの行事でございますが、8月1日から6日まで、高校選抜アイスホッケー大会、2日には、14年目になりますけれど、埼玉県入間市中学生と市内中学生の交流会、また、重なる日程ではありますが、港まつりも2日から4日まで開催をされます。また、先の札幌市での特別支援学級の生徒の食物事故に関して、本市では8月23日、26日、29日の3日間で特別支援担当の先生全てに消防隊員を講師とした研修を考えております。最後に、私は議会日程と重なることもあり参加できないところでもありますけれど、9月3日から4日にかけて全道教育委員協議会の富良野大会が開催をされる予定になっておりますので、お伝えをして報告とさせていただきます。

(上原委員長) 何か御質問等ございますか。

(一同「なし。」の声)

## 5 議 案

### 第1号 平成25年度 教育委員会点検評価・報告書について

(学校教育部次長) —「平成25年度(平成24年度対象)教育委員会点検・評価の報告書」の説明—

(上原委員長) 質疑の方法ですけれども、学校教育と社会教育と分け、区切りながらいきたいと思いますので、お願いいたします。まず、教育委員会の活動状況と学校教育の充実を最初に質疑に付したいと思います。この2つの中で御質問等ございますでしょうか。

(佐藤守委員) 今年から備考欄が増えたということで、大体評価成果がBのところ

備考欄が書かれてはいるのですけれども、今後こういうふうにしていきたいということを書いてあると思いますけれども、B評価で備考欄で書いてないところも若干あるのですが、それは何か意味がありますでしょうか。それから、情報通信機器を活用した授業づくりの推進ということで、成果と課題が去年と同じ文面だと思えるのですけれども、去年も同じB評価で改善という形になっていたのですけれども、全然進まなかったのかどうか、備考欄には、研修講座の開設は終了するとなっているのですけれども、その説明をお願いしたいと思います。また、学校における省エネ活動の推進というところで、先程科学センターの太陽光パネルを見てきたのですけれども、ああいった形で新しい学校には太陽光パネルの設置があるので、教育の中で学校の中でできるということで、今後科学センターを使ってそういう協力をしていくということだと思えるのですけれども、課題の中に古い学校が課題だということで、もしあるのであれば、備考欄に何かこのような予定を書いていた方がいいのかなと思います。

それから、福祉の心を育む学習活動の充実ということで、これは終了ということで、みんなで福祉大作戦が終わったということで終了なのかどうかをちょっと確認させてください。また、幼稚園教育のところですが、はなぞの幼稚園が廃園になりますので、それに伴って幼稚園教育の方向性がどのようになっていくかというのが、この形では継続になっているのですけれども、ちょっと見えないかなと思っておりまして、その辺の考え方もちょっとお聞きしたいと思います。

(学校教育次長) 備考欄を設けたというところにつきましては、B評価に対してのコメント、それでないところもあるのではないかなというような御質問でございますけれども、B評価があるとか方向性のところだとかですね、そういうようなことではなくて、その評価について少しコメントしたほうがより分かり易いだろうというような観点で記載をさせていただいています。それから、省エネ活動の太陽光パネルにつきましては、今は小学校2校それから中学校2校をモデル校という形で指定させていただいていますが、築年数の古い学校というのが挙がっているのですけれども、省エネということで行きますと、新しい学校は当然隙間風がないとかで比較的暖かいわけで

す。だから、省エネに取り組むというふうについても、新しい学校については取り組み易いという状況があるのですが、逆に西側の古い学校はどうかというふうにと、省エネをやってくださいといっても、冬場になると寒いだとかがございまして、中々学校一律にいかない現状がございまして。それぞれの学校に施設上の問題もあるということで、検討していかなければならないというような観点で、ちょっと記載させていただいております。当然、太陽光パネルにつきましても、環境教育ということで、取り組んでいければいいというふうに思っておりますが、教育委員会としては、当面耐震化を進めるということが最重要課題というふうになってございまして、もう少し太陽光パネルを設置していくということにしますともう少し先になるかなというふうなところでございまして。それから、幼稚園教育でございましてけれども、24年度ということになりますので、当面につきましては、私どものほうでは私立幼稚園の協会とどのような連携ができるのかという観点でお話をさせていただいております。とりわけ、特別支援教育についてお話をさせていただいているところですが、まだまだ色々とお話をしていかなければならないという状況なのかなと、また、幼稚園のほうも、特別支援教育の関係、それから教育委員会への要望というのですかね、どのような実態にあるのかということも調査をさせていただきながら、今後とも連携を深めていきたいというふうに考えてございまして、よろしくお願ひしたいというふうに思っております。
(指導室長) ICTを活用した授業づくりの推進というところで、昨年度と同様の取組内容、成果と課題であるという御指摘もいただきましたけれども、実際のところ、取組内容としては、研修講座を同様に2回を開催したということ、それから、成果についても授業改善が進んでいるということ、それからICTの研究会の活動が行われているということ、継続的な活動が行われてきたというふうに捉えていただければ、というふうに思っているところでございまして。また、電子黒板等のICT機器の充実がちょっと進まなかったというところは、大きな課題でございまして。しかしながら、各学校としましては、既存の機器を有効に活用する中で利用改善が1歩1歩進んでい

くという実態もございますし、この研修講座は開設を終了するというのですが、数年間に渡りまして研修講座を開設しておりまして、かなりの教諭がこの研修を受けてございます。そうした意味において、同様の研修講座ですので、違う研修講座を開催する必要があるというところから、研修講座の開設を終了するに至りました。また、ICTについては、現在サークルができておりまして、研究所を有効活用する中で、研修活動を自主的に進めていくという実態もありますので、申し伝えさせていただきます。それからもう1点、福祉の心を育む学習活動の充実ということで御指摘いただきましたように、福祉大作戦の終了に伴いまして、この部分については終了いたします。ただ、学校により、総合的な学習の時間のテーマの中で福祉教育の取組を推進している学校もございますし、学校側の置かれた地域の環境の中では、福祉施設等との連携を密接に図っていく必要があるということもございますので、取組自体が全て無くなるということではないということで、御理解をいただきたいと思っております。

(植木委員) 特に学校教育の充実に関わるころの、成果ではなく課題のほうでちょっといくつかお聞きしたいのですが、まず、学力学習状況調査から考えてですね、学校間格差が解消することが必要とここでは書かれてはいますが、その具体的な取組でどういうことを想定しているのかということが1つ、それから、今後学力向上に向けたその取組の中の大きな要素は、教職員の資質能力向上ということと合わせてですね、ボランティアの人達をどう活用していくのかということが大きな要素ではないかなと思っておりますけれども、その中で、備考欄に25年度から退職校長会との連携を行うということですが、これは学校教育全般に渡っているのか教科を限定してやろうとしているのか、そのあたりはどう考えて子ども達に還元していこうとしているのか、お聞きをしたい。それから3点目ですが、ICTに関して、各学校現場でICT機器を使って子ども達により良く基礎基本に関わることを取り組ませようとしているのですが、この充実のための予算化というものは今後どう行っていくのか。ある程度各学校でICTの機器に関わっては充実してきていると思うのですが、更新ということも起こり得るわけで、このあたりは予算化を今後考えるのか、それとも既存の各学



校の予算の中で考えさせていくのか。4点目ですけれども、防災教育に係って、三角部
分で各学校の教育課程への位置付けというようなことが書かれていますけれども、研究
所に防災委員会ができて2年目だと思いますけれども、各学校との連携とですが、各小
中学校でこの防災に関わるマニュアルの作成している割合はどうなっているのか、お
聞きしたい。
(学校教育部次長) ICTの機器更新と予算化というお話がございました。現在、予
算化に向けて取り組んでいるところですがけれども、生徒用のパソコンと教職員用のパ
ソコン、現在入っているパソコンの更新ということで、XPのサポート終了がござい
ますので、26年度4月に向けて予算化に取り組んでいるところでございます。
(指導室長) 全学校の学力学習状況調査又は苫小牧市統一学力検査で出ております結
果も、学校間格差というので、どういうものかというふうになってございましたけれ
ども、これについては、学校の指導に差があるというよりも、家庭の教育力というよ
りは地域の課題というものに差が生じていることによって、こうした学校間格差が生
じてきているということで、具体的な取組内容の中で、③の家庭への啓発・協力依頼
ということで、平成24年度の苫小牧市学力向上アクションプランそれから今年度の
アクションプランについてもこの部分については、重点的に視点を当てて取り組ん
でいるということです。2つ目、ボランティアという部分で、備考欄に退職校長会と
の連携というのがございまして、夏休み等で行う各学校の補充的な学習サポートに、
退職校長会の方々の力添えをいただきまして取り組むということで、学校と退職校長
会のほうでお手伝いいただける方と直接連絡を取りながら進めているところでござい
ます。背景には、道教委の施策であります学生ボランティアの支援の状況が大学生の
試験と小中学校の夏休みと日程が折り合わないということで、中々できないという考
えもございまして、退職校長会の力添えをいただいているところでございま
す。最後、防災教育に係ってマニュアルの作成状況ということですが、全ての学校で
学校独自の学校防災マニュアルを作成済でございます。平成23年の12月に、苫小
牧市教育委員会としましては、学校防災対応マニュアルを策定しまして、これに基づ

いて各学校で、独自のマニュアルを作成するようという指導をしてきたところですが、平成24年度、学校全てでできているという状況です。それから、教育課程の位置付けが課題であるという、三角で示しているところですが、地域と連携した防災訓練の実施、横断的に防災教育については教育課程に位置付けて取り組まなければならないのですが、まず、防災教育の全体計画というものを学校できちんと立てて、その上で、取組を推進していかなければならないということなのですが、その部分については若干まだ遅れているというようなことが現状でございます。

(佐藤郁子委員) 2点について、教えていただきたいことがあります。終了時の評価についてですが、情報教育のところは1点と、福祉教育のところは1点、考え方が、終了時の評価は、ICTを使った授業づくりのところ、その成果がBで、改善で終了するという説明がありましたが、他の施策の計画があるかどうかということです。福祉教育も、同じように、その成果がCにもかかわらず、終了しているということは、他の何か施策の計画があるかどうか。それからもう1つ、幼稚園教育のところですが、今年度と同じ内容で継続していくという位置付けて、課題があるにもかかわらず、今やっているところの改善点の見直しが既にもうお済みなのか、それに対する施策計画などがあるのか。これら2点について教えていただきたいと思っております。

(学校教育部次長) 幼稚園教育のところでございますけれども、A評価で継続ということになってございます。取組に対しては、十分な成果があつて、今後も継続をしていかなければならないという考え方で、25年度もそのような取組というふうになってございます。今後の形につきましては、公立幼稚園がなくなるので、特別支援教育等はなぞの幼稚園で積み上げられてきたものを私立幼稚園に引き継いでいくのかというところも最大の課題になってくると考えてございます。そういう面では、そのところを引き続きこれからも継続していかなければならないと考えてございます。

(指導室長) まず1点目ですが、ICTを活用した授業づくりの推進の部分で、成果がBで方向性改善ということで、今後の具体的な施策の部分ですが、ICTの研究委

員会ですとか、それから研修講座を開設するという部分での施策はございませんが、
現在小中学校の、特に小学校の多くの学校が、学校の研究テーマとして、算数の授業
改善という部分で取り組んでいる学校が大変多くございます。そうした中では、電子
黒板等を使った授業というのは当然行われているわけで、我々指導主事が学校訪問を
する際には、そうした部分について、学校に指導助言を行っていくというような形
で、授業改善の取組を更に充実させていきたいというふうに考えてございます。それ
から福祉の部分では、先程もお話しましたがけれども、福祉教育だけではなく、例え
ば、環境教育もそうですが、学校としては、何らかの形で取り組まなければならない
部分でございます。当然総合的な学習の時間で、地域をテーマにして取り組んでいる
学校については、そうした形で取り組みますけれども、特にそうでない場合について
は、教科や領域を横断した形でこの福祉教育については、取り組んでいかなければな
らないというふうになっていますので、我々が年に数回学校訪問しますし、直接管理
職の先生とお話しする機会もございますので、こういった形で福祉教育の実施につい
ては、働きをかけ、指導助言に努めていきたいと考えています。
(佐藤郁子委員) そうしますと、先程ICT活用についてサークルが発生しているとい
う御説明があったのですが、その延長上に新しい計画が出る可能性はあるというふ
うに考えてもよろしいでしょうか。
(指導室長) サークル自体は、自主的な活動なのです。我々としては、それがどんど
んできていただければいいかなと、特に研究所で設置している研究委員会、防災教育
研究会もそうなんです、2年間という期間の中で研究委員会を設置しますので、そ
の後はそこに参加した教員達が自主的な取組で研究テーマについて勉強していくとい
うようなスタイルですから、ちょっとこの場でICTの活用した授業づくりについ
て、大きな何かを立ち上げてということについては、今のところは、お話できる段階
ではないということになります。
(上原委員長) それでは、説明員を交代し、「社会教育の充実」についての質疑を行
います。

(佐藤守委員) 地域活動の充実ということで、洋上研修の関係ですが、三角で、参加後の成果が見えにくいという意見があるという部分なのですけれども、具体的な中身をちょっとお聞きしたいなと思います。それと、スポーツの振興で、アイスホッケーの殿堂が何か最初の立ち上げより段々声が小さくなっていったという状況だとは思いますが、今後の継続性というのはどうなのかなというのが、ちょっと疑問が湧いてきたものですから、ちょっとお聞きしたいと思います。

(スポーツ生涯学習部長) アイスホッケーの殿堂についてでございますが、ここに記載のとおりでございます。まず、日本アイスホッケー連盟のほうで、白鳥アリーナに殿堂を置く予定でございましたが、今、東京にホッケーリンクを造るという計画がございまして、その進捗状況によっては、その東京にできるリンクのほうに殿堂を造るかもしれないというお話もありまして、まだ日本アイスホッケー連盟のほうで確定していないという状況でございます。市としてはその方向性を見守りながら、今後、アイスホッケー連盟から正式に回答があれば、それに向けて参加して、きちっと整理して参りたいと考えておりますので、御理解いただきたいと思っております。

(青少年課長) 洋上研修について、子ども達への研修教育の事業ということで、すぐ成果が見えるものではないというふうには考えております。ただ、地域活動におきまして、どの程度子ども達が研修を受けたことを発揮できているのか、子ども達だけではなくて、地域においてもどのように活用しているのか、活用しようとしているのかといったようなところの問題もあるかと思うのですけれども、高くない費用を掛けていくというところもございまして、きちんと成果として、具体的というのは難しいと思うのですけれども、出せるような形にしたいというふうには思うこともあるものですから、あのちょっとこのような形で進めていきました。

(佐藤守委員) 洋上研修の場合は、行く前に事前研修を十分に行っているのですけれども、事後研修という終わった後のフォローがないから、それだけの形になるのではないかなと思いますので、洋上研修が終わった後その参加した子達をもう少し集めて良い方向に動くような形に考えてもいいのかなというふうに思います。それから、ア

アイスホッケーの殿堂の件なのですけれども、もし東京にリンクができて、できなかった場合というのは、やっぱり苦小牧としてのアイスホッケーの殿堂みたいことで、このスペースが有効利用できるような形を考えていただきたいと思います。いずれも要望です。

(佐藤郁子委員) 18ページの文化芸術の鑑賞機会の充実というところで、やはり先程と同じように成果がAで継続ということなのですが、課題が挙げられておりました、この3点に共通しておりますのは、検討が必要ですか工夫が必要ですか参加者が少ないというところなのですが、1つは宣伝の仕方にあるのではないかと思いますので、備考か何かに書いていただければ、あまり誤解がなく受け入れられるのではないかなと思います。平日の開催についての検討もあるということなのですが、1つはその開催すること又はした後の考え方だと思うのですけれども、よく計画をされて、実施されると思いますけれども、その宣伝効果が少なくてそういう結果になっているのではないかなと思いますので、備考のところには1言2言書いていただければ、継続して、このまま継続してもあまり同じような問題が起きるのではないかなと思いますので、そういう予定があるかどうか、計画として考えられるかどうかというところを教えてくださいいただければと思います。

(生涯学習課長) 市民への周知等についてですが、おっしゃるとおりで、この課題にも書いておりますとおりです。やはりこのような課題の表現になるとは思うのですが、そのようなことに前向きに取り組んでいきたいというふうに思いますのでよろしくお願いいたします。

(上原委員長) 他にございますか。今の佐藤郁子委員の質問と関連するのですが、私は実際に町内会におりまして、案内状が来るのですが、それを地域の方々に説明をするのですけれども、その説明の材料がちょっと具体的なものが少ないような気がするのですね。アウトリーチというのは何なんだという、そんな話があります。具体的にどういう形で申し込んだらいいのだろうか、こちらのほうでかみ砕きながら教えてあげるのですが、実際にパッと見て分かるようなものがあるといいなというふうに思い

ます。地域では、御婦人方それから高齢者の方々あるいは退職された方、非常にエネルギーといますかね、そういう感じはものすごく高いのですよ。ですから、もっともっと宣伝の仕方によっては、こういう事業というのはもっともっと大きくなるのではないかなという気はしています。生きがいという面では生涯学習に関係してくるんじゃないかな、是非そういうような工夫をしていただければというふうに思います。案内の時期もタイミングとかあるのですよね。あまり早いと忘れてしまうというのものもあるし、それからあまり近くだと、例えば地域の方々へ浸透させるのに回覧を使ったりなどすると、大きい町内会では200くらいの班があつて、そこに回したりなんかするものですから、非常に時間が掛かたりしますので、そこら辺のことも含めて内容と時期とを研究していただければ、もっともっと中身は増えるんじゃないかなというふうに思っております。これも要望ですのでよろしくお願いいたします。他にございますか。よろしいですか。それでは、議案第1号に関してですが、原案どおり承認ということよろしいでしょうか。

(一同「はい。」の声)

—原案どおり決定—

## 第2号 平成25年度 苫小牧市統一学力検査結果と考察

(指導室長) —「平成25年度 苫小牧市統一学力検査 結果と考察」の説明—

(植木委員) 指導室、学校現場が一丸となつて学力向上に関わつては大変な取組をしているということを承知しているのですが、その上でお聞きをしたいなと思ひますが、小中学校の総評のところの1番最後のところですね。全国学力学習状況調査ももう何年も続いていますし、本市のこの統一学力検査も2年目ということで、結果と考

察でこう書かれていますけれども、大体似通った文言が多くてですね、これでいいの
かなという思いも実はちょっとあるものですから、お聞きをしたいなと思うのです
が、下から4行目、1番最後の総評のところですけども、解決に向けた徹底分析、
これはかなりの部分で学校現場も指導室もされてて、今後に生かせるかなと思うので
すが、「適切な取組が進んでいない現状」という文言がございますよね。この適切な
取組ということは一体何を想定していらっしゃるのか。もし想定しているのであれば、お聞きしたい。
(指導室長) 解決に向けた徹底分析と適切な取組が進んでいないと、徹底分析という
のは、具体的に申しますと、1人1人の子どもの学習状況を照らし合わせた、きめ細
かなという言い方もできるかなというふうに思います。全体を通して、平均としてと
いうような捉えではなく、本当に1人1人の子どもの学習状況の徹底分析を行ってい
ただきたいということです。それからもう1つ、適切な取組というのはどうしたこと
かといいますと、学力向上アクションプランには3つの視点を示してございます。授
業改善の取組、それから学校間の連携、そして家庭への教育力の向上ということで、
こうした結果がで出る背景には、学校として取り組まなければならないこと、1人の
子どもが小学校・中学校の義務教育9年間で力を付けていかなければならないこと、
そして、家庭と一体となった取組をしていかなければならないという、個々の課題が
あります。指導室としては丸投げをしているわけではないのですが、市としてこうい
う方針で苫小牧の子どもたちの学力を上げていきたいと思いますというのは、学力向上アクショ
ンプランでうたっていますので、これを自分の学校の実態と適切に照らし合わせて、
徹底分析をして、これに沿った取組を学校の実態に応じて行っていただきたいという
ところが、適切な取組というところがございます。そうした意味においては、実際何
を行えばいいのだということで、3つの視点を当てているのですが、それぞれ前にも
話しましたが、実践研究しているところで、学校にお願いしている部分もあります。
8月・9月には、中間発表ということで予定しております、その中での成果や課題
を全ての小中学校で理解していただきながら、自分の学校の取組ということで進めて

いただきたいというふうに考えているところでございます。

(佐藤郁子委員) 1つ教えていただきたいのですが、学校間の連携で、年間でそれぞれ行事があってお忙しい中に、担当している先生達とかが集まって情報交換をするとか、そういうような機会というのは、忙しい中で多分見つけてなさると思うのですが、どのくらい考えていらっしゃるのか。また、1学期に何回とか、2学期に何回とかあると思うのですが、連携している学校が何校くらいになるか、実践校が中心になって実施しているとは思いますが、地域によって学校数が違ったりすると、問題もおのずと変わってくると思うのですが、教師間又は学校間の連携というのは大体どのくらいを予定していらっしゃるのか。

(指導室長) 実は平成23年までにはほとんど行われていなかったという実態がございます。それで、今年度はどうかというと、全ての学校で、小中の学習指導に関わる連携は、進められております。特に小中学校の校長会それから教頭会の協力もいただきながら、それぞれが課題意識を持って取り組んでいただいております。回数でいいますと、何回実施すればいいということを指導室で定めるものではないと考えております。内容としては、統一学力検査や全国学力学習状況調査の結果考察をまとめたものを中学校区で共有していき、小学校時代にできることを中学校の実態を見て小学校に考えていただいているところです。また、前にもお話ししましたが、国の指定も受けているものですから、そちらのほうもできるだけ取組としては進めまして、市内に大きく発信していきたいなというふうに考えてございます。

(佐藤郁子委員) 研究所で考えていらっしゃる方向とですね、室長と現場の先生方が考えている考えというのはやっぱり少し差があると思うのですが、学校間の連携と研究所との、比較ではないのですが、両方持ち寄って1つのことを創っていくということも可能なものなののでしょうか。理想と現実との差があれば、中々出しても達成するには難しいものがあるだろうなとは思いますが、そのあたりでうまい具合に話をして、1つのものとして創り上げていくということを考えていらっしゃると思うのですが、可能なこととして期待してもよろしいですか。



(指導室長) 我々が考えているものが、学校現場との認識の開き、あるいは実態・現実問題というのと開きがあっても非常に困りますので、取組としては、市内の教職員で構成します学力向上推進委員会というのを立ち上げています。こちらの方で、先程ちょっと話題になりました指導資料作成部会と小中連携推進部会というふうに分かれています。ここには一般の先生方も入っています。学力向上推進委員会の小中連携部会と、研究所には小中連携教育研究委員会というのが立ち上がっています。それぞれが全く別の取組をしては困るということで、両方の取組を相互に共有しながらそれぞれ、学力向上推進委員会は学力という部分での小中連携ですし、研究所に置かれている小中連携教育研究委員会というのはいちよつと広い意味での小中の連携のあり方というふうに捉えていますので、それぞれがそれぞれの動きをしっかりと理解しながら取組を進めているところでもあります。今後の成果と伺いますか、期待していいのかということですが、統一学力検査が小学校4年生からスタートし、中学校3年生の全国学力学習状況調査で、大きな調査が6年間続くという部分で、向上する6年間ということで、1人1人の子どものこの6年間の流れをしっかりと見ていきましょうと、そのための小中連携ということですので、結果が出るように進めていくところがございますので、御理解いただきたいと思ひます。

(佐藤郁子委員) ありがとうございます。私もどうも研究所の方と現場の方のところがちよつと分からなかったものですから、一生懸命皆さんやっているのに、あまり形として出てこなければ、やはり理解もされにくいのではないかなと思ひて聞きましたので、よろしくお願ひいたします。

(上原委員長) 他にございますか。それでは質疑がないようですので、原案どおり決定することよろしいでしょうか。

(一同「はい。」の声)

—原案どおり決定—

第3号 教育委員会職員の人事について
第4号 教育委員会職員の処分について（諮問）
第5号 教職員の処分について（内申）
第6号 教職員の処分について（報告）
（上原委員長） 議案第3号から6号までについては、人事案件等でございますので、
会議規則の規定により秘密会としたいと思いますがよろしいでしょうか。
（一同「はい。」の声）
—原案どおり決定—
6 協 議
な し 。
7 そ の 他
（1） 平成24年度の指定管理者モニタリング総合評価結果について
（スポーツ生涯学習部次長） —「平成24年度の指定管理者モニタリング総合評価結
果について」の説明—

(上原委員長) 質疑に付します。
(佐藤守委員) C評価までは問題ないということで認識していいのですよね。CからBに上がるようなところはいいかなと思うのですけれども、BからCにというところは何かあるということではないのですね。
(スポーツ生涯学習部次長) 特に公社がどうだこうだということではないと思えます。ただ、公募の施設と非公募という施設がございまして、公社については非公募の施設ということでございます。そういうことも関係しているということは考えられると思えます。
(佐藤守委員) もう1つだけ。各施設で自分のホームページでこういう結果が出ていますのですけれども、調べる期間とそれから公表する方法がばらばらで、自分達の独自のホームページなのでいいのかなとは思いますが、比べる必要がないのですけれども、非常に見ている方としては見づらいなという感じがあるので、できればモニタリングに関しては、一体感があって見られるような形にならないかなということ要望します。
(佐藤郁子委員) ABCで分かれて、パッと見てしまうとランク付けをすると思うのですが、特に公社のCは、自分に対して厳しくてCとかそういうことではない、アンケートの内容から判断してCなのか。内容をパッと見たときの感じが誤解されやすいのではないかなと思えます。
(スポーツ生涯学習部次長) 基本的には市のほうで判断して結果を付けるということです。もちろんセルフモニタリングの数字も参考にはします。
(上原委員長) 他にどうですか。この結果を受けて、対象の指定管理者に対して何かあるのですか。
(スポーツ生涯学習部次長) 現在はAAからEまでということで、数値を100点満点で、80点から90点までがAと、90点を超えるとAAという形になります。それで各ページ各施設のところを御覧いただければ分かると思いますが、100点満点の中の点数が付いております。それでこれは、最終年を除いた年の平均点が80点以

